



報道関係者各位
プレスリリース

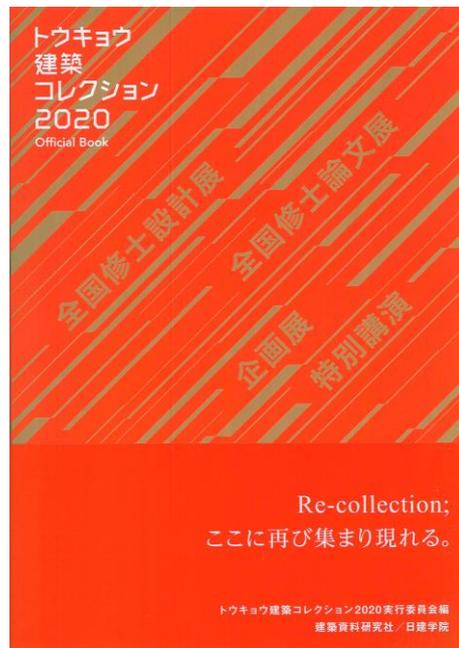
2020年7月16日
株式会社 建築資料研究社/日建学院

「トウキョウ建築コレクション 2020 Official Book」

7月17日(金)に発売

～修士学生が社会に向け発信する建築セッション、その全記録を収録～

建築・住宅・インテリア・資格等の専門書を発行する株式会社 建築資料研究社/日建学院（所在地：東京都豊島区、代表取締役社長：馬場栄一）は、「トウキョウ建築コレクション 2020 Official Book」を全国の書店・オンライン書店にて7月17日（金）に発売いたします。



▼書籍紹介 HP

<https://www.kskpub.com/book/b512622.html>

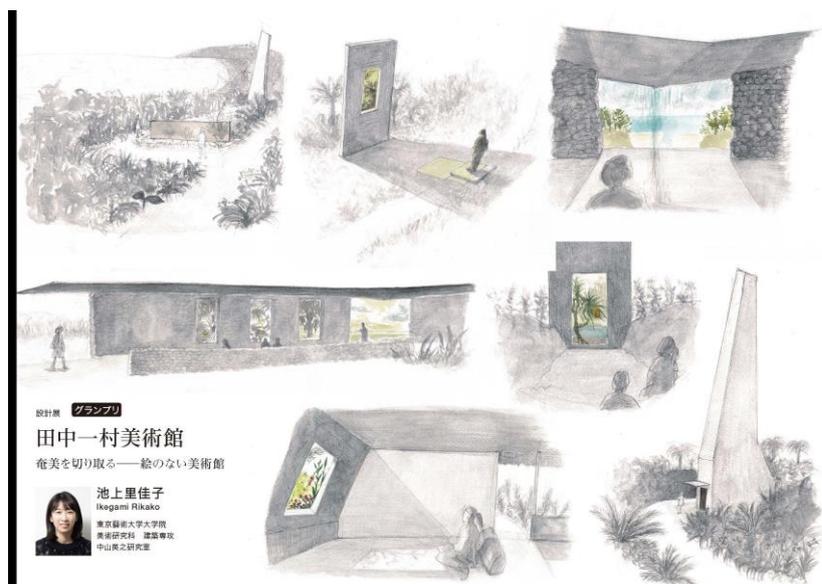
【トウキョウ建築コレクションとは】

2007年に、早稲田大学を中心とする建築の修士学生たちが、修士設計作品を全国から集めて展示する「全国修士設計展」を企画し、これに関連企画も併せて「トウキョウ建築コレクション」を代官山で開催しました。これがスタートとなり、その後企画を拡大・充実させながら毎年開催を重ね、今年で14回目となります。

全国の修士学生が、社会の第一線で活躍する建築家や研究者などを招き、作品の展示と共に議論の場を生み出し、また記録本を出版することで、建築をめぐる若々しいメッセージを広く社会に発信していくことを目指しています。

▼（大会レポート）トウキョウ建築コレクション 2020 「re; collection」

<https://luchta.jp/special/competition/tkc2020>



トウキョウ建築コレクション 2020 設計展 グランプリ作品

【書籍説明】

- ◆書名：トウキョウ建築コレクション 2020 Official Book
全国修士設計展・論文展・企画展・特別講演
- ◆編者：トウキョウ建築コレクション 2020 実行委員会
- ◆発行日：2020年7月20日
- ◆定価：本体2,000円+税
- ◆コード：ISBN978-4-86358-709-0
- ◆仕様：A5判、296頁
- ◆販売ルート：全国大型書店、オンライン書店、直販
- ◆発行社：株式会社建築資料研究社

<出版部>

所在地：〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-10-7 ビルディング K 6F

TEL：03-3986-3239

FAX：03-3987-3256

URL：<https://www.kskpub.com/>

【内容】

「全国修士設計展」（審査員：能作文徳、長谷川逸子、早部安弘、藤村龍至、マニユエル・タルディッツ）の入選作品10点、「全国修士論文展」（審査員：倉方俊輔、前真之、山下哲郎、山田あすか）の入選作品10点を、それぞれじっくり紹介するとともに、作品をめぐる審査や討論の内容も忠実に記録。併せて、「大学教育と資格」をテーマにした「特別講演」（パネラー：富永美保、山岸雄一、山村健）も収録。

【目次】

https://www.atpress.ne.jp/releases/218556/att_218556_1.pdf



て、一定の距離を確保していることが素晴らしいと思いました。逆に、「人殺して、転落する」(p.54)の鈴木敏夫さんを筆頭に、中村さん、中山さん、黒澤さん、池上さんはまあまあ卒業設計っぽいですが、リサーチと論文まではいいのですが、その後、形にいくときは論理的になってしまっている。

私は、藤土論文の対比で、藤土設計は自然科學的な作法となるべく近づけてみるように、と指導されてきました。なので、形を分析して言語化し、設計言語を定めてそれを統合した事は——能作さんは批判をされていましたが——、藤土設計としては正しい案とも思えるので、もっとも藤土設計らしい案を選びました。

ですが、先程も言ったようにあくまでこれは入り口ですが、あとは議論をしながらグループに各自の思いが反映が、探っていくべきだと思います。

要素還元派を巡って

黒村：それでは議論に移しましょう。私はつい分岐をしてしまう癖があるのですが、それをすると物事限定の対立。長谷川さんに知られてしまいました(笑)。結論、おっしゃる通り全肯定する論者が行っているんです。こうした議論でもなるべくいい点や可能性を話しているほうが良いのかもしれない。というつもり。先程、能作さんからは批判がありましたので、批判された人たち——これは要素還元派といえるかもしれませんが、皆さんからかなり反論

はありませんか。

黒澤：私は学部を卒業した後、少し働いてから藤土に入ったので、もろもろ研究がなかったんですけどね。実際ではクライアントが必ずいるので、自分の表現だけでは設計できません。いわば、藤土設計は自分自身と向き合う機会だと思い、あるいは自分自身の手先を使って設計を行いました。私はそれを肯定的に捉えています。

中山：藤土設計とは、このあと卒業して多岐建築家としてのマニフェスト的なものだと思います。僕の場合、エロゾジのための活動をもっとがデザインなもの、おもしろいものを作りたいというところをマニフェストとして出したと思います。それを常に考えながら設計をしていました。

黒田：僕も要素還元派と言われていると思うのですが、分析よりもはたして、茶碗づくりや機織りづくりに対する興味がありました。もしかすると、設計よりも先に思いの場があり、最後に建築家の手が施される部分の構築です。機織りも手織り設計がいくつもありはなくて、ナイフや金庫に施されてきて、後から理論的の方法や概念的な方法を試しながら、新しい発見ができたという考えです。陶芸と設計、研究を通して、その両方の面白さを感じました。

黒村：私が黒田さんに書かれたのは、要素還元派の中でも一人だけ違う面白さからです。私自身、工業大学で学んで、美術大学で教える身として、両者をハイブリッドして「手で考えようという手

法がでたら面白い」と考えています。黒田さんの設計は、建築を設計し終えた後、もう一度分析をできれば、「手で考える」に到達できたのではないかと感じました。

長谷川：先程も黒澤先生が上で機織りをつくっていたと言いましたが、つくっている姿を見ていると、「ここを斜めにするとかこんな音が聞こえるのか」と感動を口にしてたんですね。彫刻家のようにグループも、ナイフも全部用意して、手も真っ黒にして、毎日毎日機織りながら土を削ったり切ったりしている姿は、普通の人とは違った。残念ながら、黒田さんの言葉からはそういった感動が感じられないんですね。

黒田：その感覚は僕の中にもあって、普通機織りをつくる時は既にある図面を再現する作業ですが、土で機織りをつくっていると、身体が動きに合わせて機織りに反応していくんですね。その感動を体験しながら、身体が動きと造形を定めていくというところは、すごい喜びを感じています。なかなか言葉にしてくれなかったのが、

黒村：黒田は1日1日の制作ですが、建築にはスケジュールがありますよね。絵画の黒田さんからも聞かれますが、絵画も陶芸も彫刻も目の前にあって、建築はある種それを再現する試みに見えます。

池上：なかなか、難しいですね(笑)。私がこの美術科を設計するとき、自生している動物はほとんどそのままにしました。美術館で動物を見ているときは、切り取られている動物がどうい生活環境の中で生え

ている動物なのかわからないまま鑑賞してはいるのですが、この美術館では、動物が生きている状態のまわりにある風景をすべて等質に見ることが出来ます。これによって、一瞬が体験して感動したであろう風景を体験できるのではないかと考えています。

タルデッツ：僕もそう思うんですけど、少し批判的なことも言わせてください(笑)。黒田さんの家は、陶芸から空間へ遷移する手続が見えなかったと思います。できた機織りの魅力はありますが、まるで花瓶のように、内部空間もよく見えなかった。それが残念でした。池上さんも、黒澤の魅力を感じましたし、フレームの話も面白かったです。ただ、私が巡回展示で買収したように建築の部分が、フレームを設定した以上のことが見えなかった。全体の空間構成と空間ごとのつながりを伝える素材が見えなかったと思います。

リサーチとデザインをどうつなぐか

長谷川：能作さんが中山さんを連れて来られた理由をもう少し聞かせてもらえませんか。

能作：先程黒村さんが、要素還元派だから藤土設計っぽいと言われましたが、それは確かにはそう思います。だから逆に言えば、私のした批判は教育プログラムの問題でもあり、教員である自分の自己批評でもあるんですね。要素還元派な藤土設計のフォーマットに対してあまり疑いをもたずに入っ

トウキョウ建築コレクション 2020 設計展 公開審査

▼株式会社建築資料研究社／日建学院 BOOKS & MAGAZINES

<https://www.kskpub.com/>

▼LUCHTA [ルフト] 建築系学生のための情報サイト

<https://luchta.jp/>

▼LUCHTA [ルフト] Twitter

<https://twitter.com/ksknkg>

▼日建学院 公式サイト

<https://www.ksknet.co.jp/nikken/index.aspx>

▼日建学院 Twitter

<https://twitter.com/nikkeng?lang=ja>

【会社概要】

商号 : 株式会社 建築資料研究社
代表者 : 代表取締役社長 馬場 栄一
所在地 : 〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-50-1
創立 : 1969年(昭和44年)8月
事業内容 : 建築・住宅・インテリア・資格等の専門誌を発行、建築関連資格取得のための学校運営等
URL : <https://www.ksknet.co.jp/>

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

株式会社 建築資料研究社／日建学院 コールセンター

フリーコール 0120-243-229

受付時間 10:00～17:00 (年末年始 12/28～1/5、土日祝日除く)

E-mail : nikken@to.ksknet.co.jp URL : <https://www.ksknet.co.jp/nikken/>